

普及啓発事業等について

1 令和元年度実施事業

(1) 啓発物の作成

○ 障害者差別解消に係る動画の作成

- ・ 障害者差別解消法及び都条例の内容等を盛り込んだ普及啓発動画を作成し、研修等での活用を図る。

(2) 事業者及び都民向け啓発事業

○ 事業者及び都民向け障害者差別解消シンポジウム

- ・ 対象者 企業等事業者及び都民
- ・ 時 期 令和元年12月20日（金曜日）実施予定
- ・ 会 場 東京国際交流館プラザ平成 国際交流会議場（東京都江東区青海2-2-1）
- ・ 内 容 事業者及び都民に対し、障害者差別解消法及び都条例について分かりやすく伝え、共生社会の実現に向けた取組が積極的に行われるよう、シンポジウムを実施する。

○ 事業者向け障害及び障害者理解研修事業

- ・ 対象者 企業等事業者
- ・ 時 期 令和元年11月～令和2年3月
- ・ 会 場 都内を10ブロック程度に分割し、ブロックごとに実施予定
- ・ 内 容
 - ・ ブロックごとに地域に密着して開催することで、より地域に根差した形で法令等の趣旨の普及を図る。
 - ・ 1回当たりの参加事業者数を、40名程度とする。
 - ・ 研修内容は、法令等の説明に加えて、事業者による障害体験や、障害当事者を講師として招き、障害者との対話を行うことで、事業者の障害及び障害者への理解促進を図る。

(3) 都職員向け啓発事業

○ 障害者差別解消に係る都職員・政策連携団体向け説明会の開催

- ・ 平成30年度に引き続き、法令や障害、障害者等に係る都職員・政策連携団体の理解促進を図る。
- ・ 令和元年12月2日（月曜日）実施予定

○ 職員を対象としたeラーニングを実施予定

2 法令に関する認知状況等について

(1) インターネット福祉保健モニター

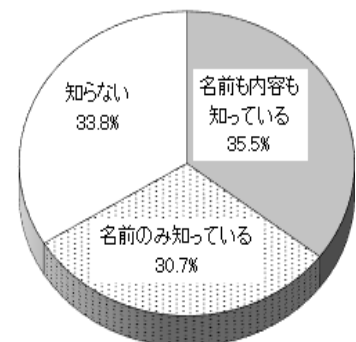
ア 概要

- ・ 福祉保健局にて、18歳以上の都民を対象に、都の福祉・保健・医療施策への意見収受を目的に実施している、インターネットでのモニター制度。
- ・ 第3回目のテーマ：「障害及び障害のある方への理解」について
- ・ 期間：平成31年1月11日（金曜日）正午～1月24日（木曜日）正午
- ・ 方法：インターネット（モニターがアンケート専用サイトから回答入力する）
- ・ 回答率：73.3%（対象モニター数：404名、有効回答数：296名）

イ 主な結果

○ 障害者差別解消法の認知度（Q10）

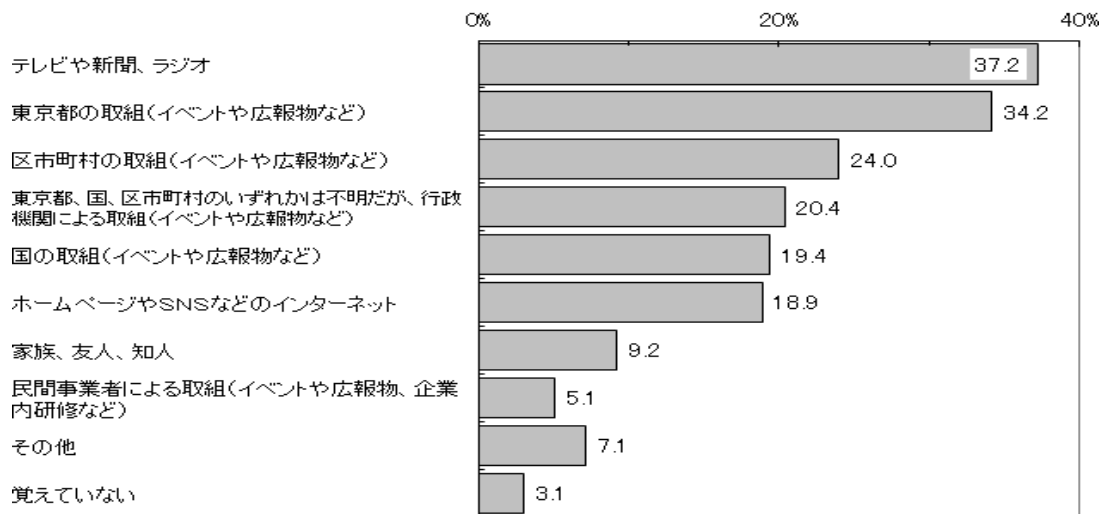
- ・ 「知っている」66.2%
 〔 「名前も内容も知っている」（35.5%）
 「名前のみ知っている」（30.7%） 〕



○ 障害者差別解消法の認知方法（Q11）

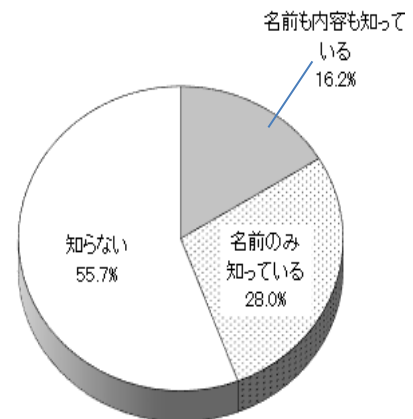
- ・ 「テレビや新聞、ラジオ」37.2%
- ・ 「東京都の取組（イベントや広報物など）」34.2%
- ・ 「区市町村の取組（イベントや広報物）」が24.0%

【全 体】(N=196)



○ 東京都障害者差別解消条例の認知度 (Q12)

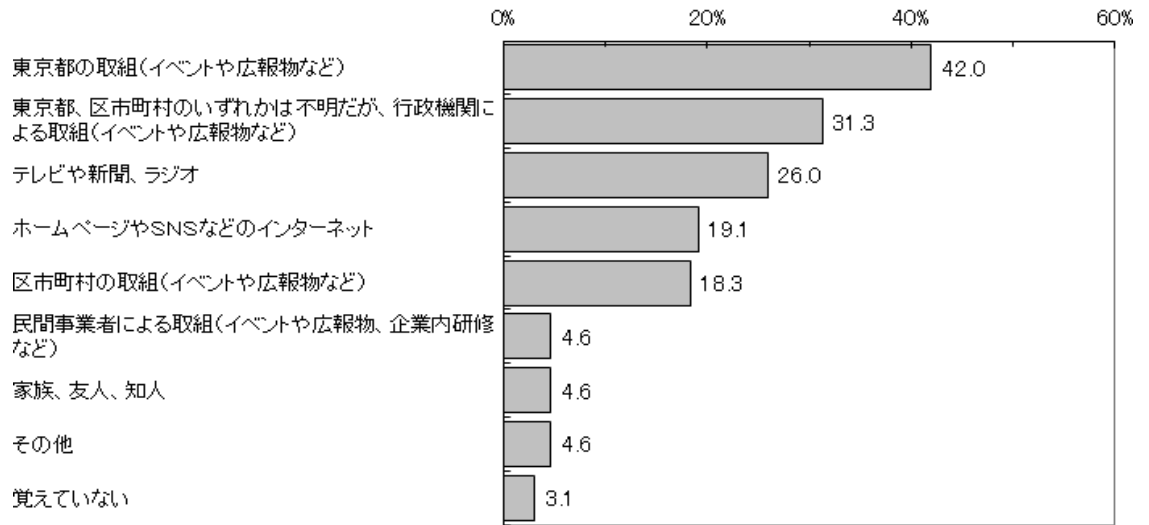
- ・「知っている」44.2%
- 〔「名前も内容も知っている」(16.2%)
「名前のみ知っている」(28.0%)〕



○ 東京都障害者差別解消条例の認知方法 (Q13)

- ・「東京都の取組(イベントや広報物など)」42.0%
- ・「東京都、区市町村のいずれかは不明だが、行政機関による取組」31.3%
- ・「テレビや新聞、ラジオ」26.0%

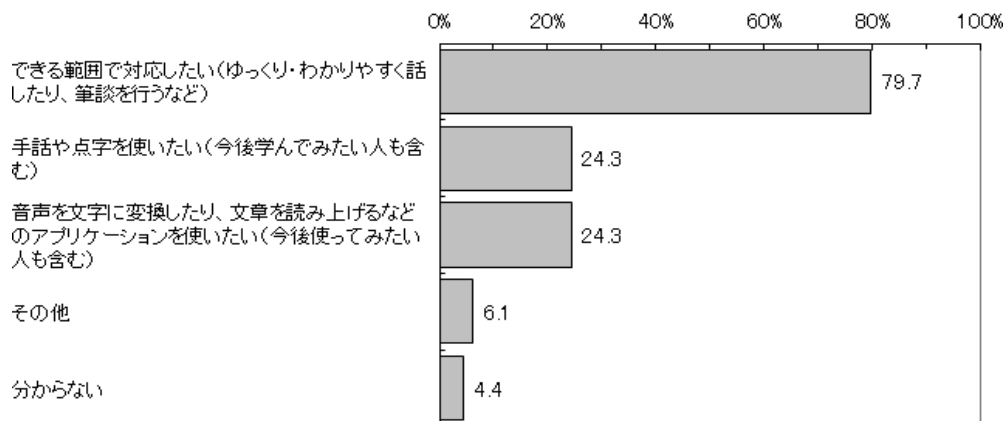
【全 体】(N=131)



○ 障害のある方とのコミュニケーションにおいて支援したいと思うこと (Q14)

- ・「できる範囲で対応したい(ゆっくり・わかりやすく話したり、筆談を行うなど)」79.7%
- ・「手話や点字を使いたい(今後学んでみたい人も含む)」、「音声文字に変換したり、文章を読み上げるなどのアプリケーションを使いたい(今後使ってみてみたい人も含む)」各24.3%

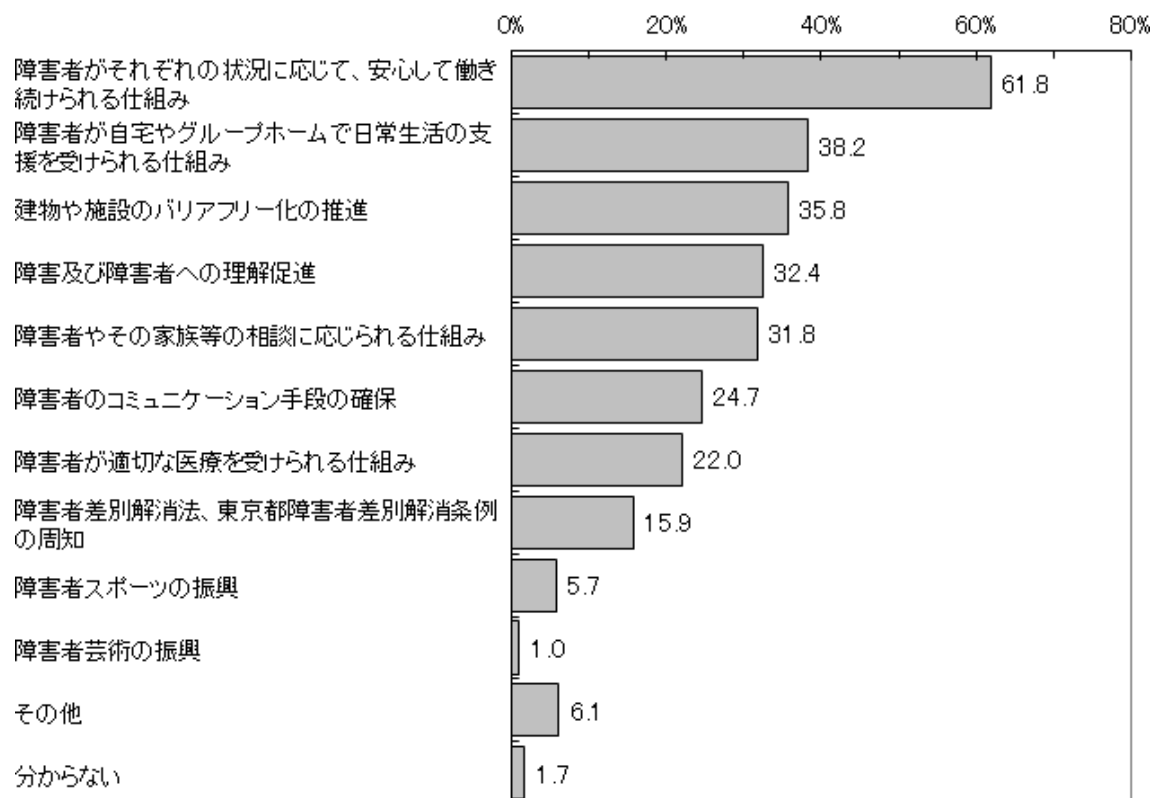
【全 体】(N=296)



○ 障害のある人もない人も共に暮らす地域社会を実現していくために、重要だと思うこと（Q18）

- ・「障害者がそれぞれの状況に応じて、安心して働き続けられる仕組み」61.8%
- ・「障害者が自宅やグループホームで日常生活の支援を受けられる仕組み」38.2%
- ・「建物や施設のバリアフリー化の推進」35.8%

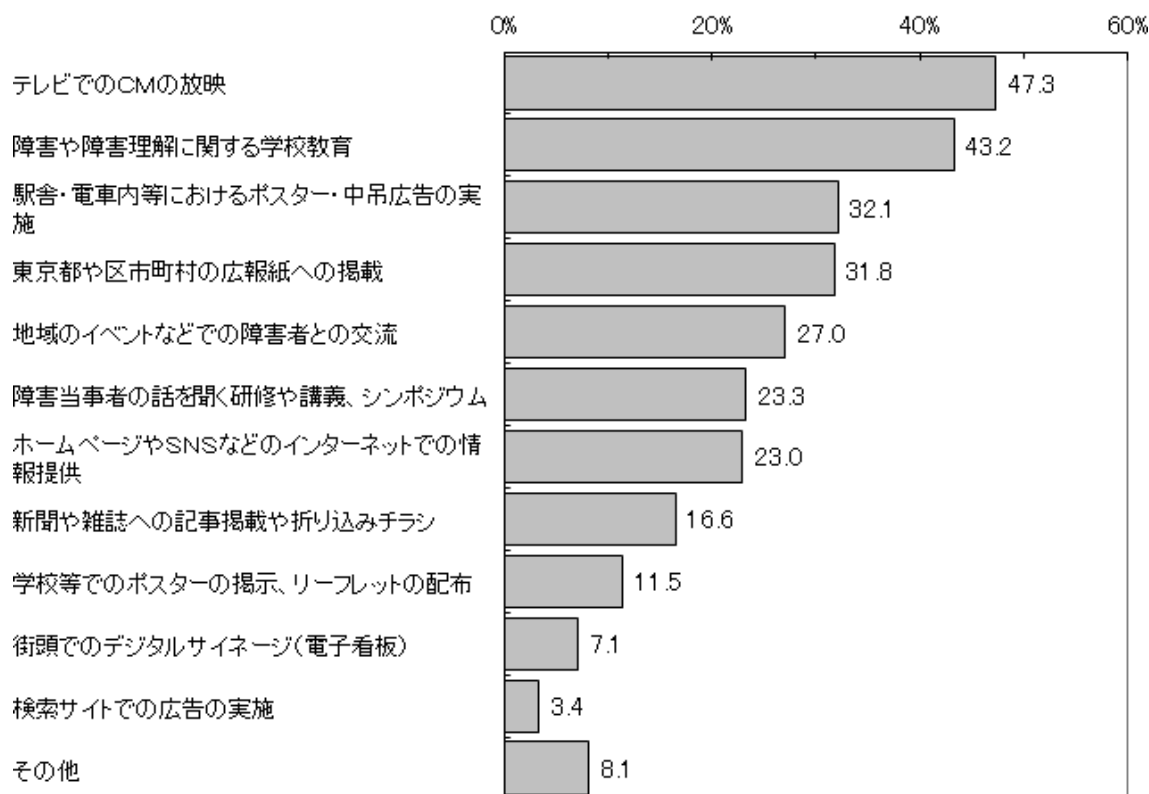
【全体】(N=296)



○ 「合理的配慮の提供」の実現に向け、都民の障害者や障害への理解及び障害者への適切な配慮を促進するための普及啓発として、効果が高いと思う方法（Q19）

- ・「テレビでのCMの放映」47.3%
- ・「障害や障害理解に関する学校教育」43.2%
- ・「駅舎・電車内等におけるポスター・中吊広告の実施」32.1%

【全 体】(N=296)



○ 障害及び障害のある方への理解促進について、意識、普及啓発に関する意見 (Q20)

- ・「障害のある方が暮らしやすい」とは、障害の有無にかかわらずすべての人にとって暮らしやすいことにつながっていると思っている。現在は障害のない人も、自分自身のことであるという意識付けが必要と考える。
- ・障害のある方がどの程度、助けが必要なのかが分からないため、困っているようなときも気軽に声をかけにくいと思っている。具体的な例を知っていれば、対応しやすいかもしれない。
- ・障害のある方が身近にいないとなかなか理解にむすびつかない。地域のイベントなどで交流できる機会を持つといい。

(2) グーグルアナリティクス

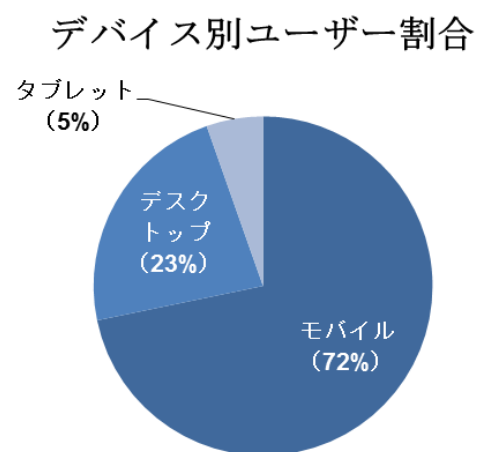
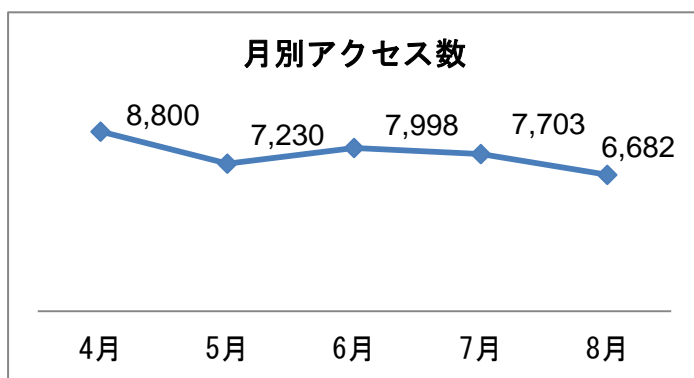
ア 概要

- ・ Google が提供するアクセス解析ツールで、登録したサイトのユーザーの行動に関するデータ収集が可能。
- ・ 特設サイト「ハートシティ東京」において、平成 31 年 3 月より当該ツールを導入している。

イ 主な結果（平成 31 年 4 月～令和元年 8 月）

○ アクセス数・ユーザー割合について

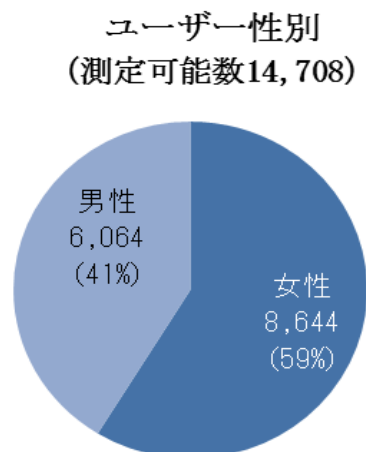
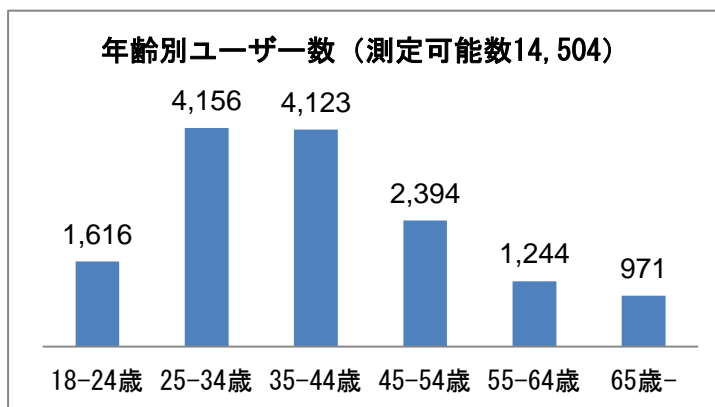
- ・ 1 か月あたりのアクセス数は、約 7,700 件。
- ・ デバイス別ユーザー割合では、モバイル使用者が最も多く（72%）、次いでデスクトップ使用者が多い（23%）。



※月別アクセス数は、日ごとのデバイス別アクセス数を 1 か月ごとに計上した数値をさす。

○ ユーザー属性について（測定可能数のみ）

- ・ 年齢別ユーザー数は、20 代～40 代が最も多い。
- ・ 男女別は、女性が 6 割、男性が 4 割程度。



※年齢別ユーザー数・ユーザー性別の測定可能数は、それぞれ当該ツールが認識できた数値をさす。

○ ページビュー数

障害に関するシンボルマークの閲覧履歴が最も多く、次いで、内部障害、精神障害が多い。

